

国際会議レポート APEC2005

The 20th Annual Applied Power Electronics Conference and Exposition

2005年3月5日から10日まで、アメリカのテキサス州の州都であるAustinでAPEC (Applied Power Electronics Conference and Exhibition) 2005が開催された。Austinは、アメリカ南部の広い林の中にできた典型的な小さな田舎町である。テキサス州都のCapital Hallとテキサス州立大学(The University of Texas at Austin)がある。

今年のAPECでは、645件のDigestが投稿され、その中329件の論文(Technical Program)が採択された。約50%の採択率である。一方、Exhibitionに出展したパワエレ関連企業は約120社であり、学会と展示会の参加者数を合わせると約2500名となる。学会に参加する大学数よりも、Exhibitionに出展するパワエレ関連企業のほうが多いと言う。他の国際会議に比べ、Paper PresentationとExhibitionの両方の楽しさを味わうことができる。

APEC2005のプログラムは3月5日土曜の午後から受付が始まり、日曜の終日と月曜の午前には、Professional Education Seminars (PES) が全18 section行われた。PESには各界から講師達が招かれ、パワエレの基礎から自分達のノウハウに至るような広範囲な講演が行われた。Presentation Section (PS) は、月曜の午後から始まった。最初にPlenary Sectionが行われ、IRとDell、Fairchild Semi.の各社CEOの講演が行われた。

Exhibitionは夕刻から始まる。半導体、材料、測定器などのパワエレ関連企業が出展する盛大なExhibitionであった。参加者だけでなく、企業展示を担当する技術者もビールを片手に進められていた。各企業は、製品のパンフレットや技術資料などが多数配られていた。Exhibitorとうまく話しあえば、サンプルをもらうこともできる。筆者は、SiCの青色LEDや600V耐圧のSiC-SBDのサンプルを2袋も頂いてきた。また、フェライトコアを製造している企業からはスイッチング電源用コアを全シリーズ頂き、筆者にとっては、かなりうれしいExhibitionとなった。

火曜には8 SectionのPSが始まり、午後はExhibitionとSeminarsが行われ、展示会に参加したExhibitorsの自社商品の説明や応用についてのSeminarが行われた。水曜には、Special Presentation Sessions (SPS) が行われ、日本からは、九州大学 二宮先生から研究室の紹介やソフトスイッチングなどの研究状況が披露された。また、SPSではアメリカNIST (National Inst. of Standards and Tech.) からSiC半導体素子の開発現状の報告が行われ、高耐圧、高速スイッチングのSiC-MOSFET (2A, 10kV) や SiC-pin ダイオード (10kV) の実験結果が報告された。

夕刻には、Austin Music HallでSocial Eventが行われた。筆者にとって、Social Eventの出席は初めての経験であった。他学会でのBanquetと同様であるが、表彰式や挨拶などが一切無い自由な形式であり、テキサスのカントリーソングが流れる中で、Barbecueとビールを楽しみながら、他国からの研究者と話し合うことができた。最終日である木曜にはDialog Sessions (DS) が行われた。DSはPoster Sessionと同様で全129件のPosterが展示された。

次回のAPEC2006は、2月19日~23日にルイジアナ州ニューオーリンズのSheraton New Orleans Hotelで開催される予定である。



写真1 Plenary Sessionの様子



写真2 Exhibitionの様子

成 慶珉 (東京工業大学)
(平成17年4月15日受付)